



今月の一枚

第六回帰敬式受式後の記念撮影（令和6年11月15日・順慶寺本堂向拝にて）

# 順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺  
2024年(令和6年)

## 12月号

VOL.374

### ◆◆ 三年に一度の帰敬式 ◆◆

順慶寺では、三年に一度、帰敬式を開催している。前回の帰敬式がコロナ禍で一年順延になったことから、今回は二年間隔の実施となった。帰敬式では、本山から青色の肩衣が特別に授与されて、この肩衣を着衣して受式にすることとなる。受式者には、肩衣の裏側に、授与法名と受式日を書くように指導がある。

#### ◆ 有害な老人とは ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「頭髮が白くなったからといって  
長老（智慧者）なのではない。  
徒に年老いただけなら  
空しく老いた人にすぎない。（第二六〇偈）  
誠実で、徳があり  
殺めることなく、慎んで、自制し  
汚れを除き、気をつけている人  
かれこそ長老と呼ばれる。（第二六一偈）  
からの引用です。」

今年も師走になりました。体温ほどにもなった酷暑に耐えて、ようやく秋になったと思ったら、もう年の瀬です。暑さにかまけて一年、何もしい間に過ぎてしまったという思いが募るのは私だけでしょうか。

さて、今月は、釈尊が祇園精舎に滞在されていたときに、<sup>ラウツカ</sup>こびとのバツティヤという長老について語られた一節です。

ある日、バツティヤ長老が釈尊に奉仕をして帰る途中、三十人の比丘がひととき身長

#### 今月の釈尊の言葉



年老いただけなら  
空しく老いた人に  
すぎない



『ダンマパダ』  
260 偈より

#### 若院のテーマカット NO.67



低い長老の姿を見て敬礼もせず通り過ぎ、釈尊の元に来てから敬礼をして座ったのを見て、釈尊が比丘たちに語りかけました。

「あなたたちは、長老を見ましたか」

「いや、見ていません。こびとの歳をとった<sup>①</sup>沙弥を見ました」

「比丘たちよ、バツティヤは沙弥ではありません。長老です。私は、歳をとって長老の座に座っている人を長老とは言いません。真実をよく理解し、多くの人々に対して無害の境地になれた人を長老というのです」

釈尊は、弟子に対して、煩惱まみれて日々を

暮らし歳をとるものは、人々に対して有害な老人というべきとされています。また、そういう人を「耄碌(もろく)」（老いぼれて碌でもない人）した人といひます。

◆ 仏法は若きときにたしなめ ◆

② 吉田兼好の『徒然草』は、鎌倉時代末期に並ぶ三大随筆の一つ。鎌倉時代末期幕府の権威が失墜して、明日をも知れぬ日々が続く中で出家した兼好が、つれづれに任せて書いた随筆です。その中に、老いてからの後悔を説明している箇所があります。

「ヨボヨボになってから、「仏道修行するぞ」と、時が過ぎて行くのを待たずしてはならない。古い墓の多くは、天逝した人の物である。思いがけず疾病して、たちまち「さよなら」を言う羽目になった時、初めて過失に気がついたりする。過失とは言うまでもなく、早く処理しておけばよい事をズルズルと先延ばしにして、どうでもよい事だけは何故だか迅速に対処してきた人生に対して過去を悔しく思うことである。

（第四十九段 吾妻利秋訳）  
大切なことだと分かっていても、いつい先延ばしをしてしまうことは多いもの。まだまだ元気だから、と言って本当にすべきことをやらずに過ぎてしまつと、やがて有害な人になつてしまつというわけです。

そういう人に対して、蓮如上人は、「若きときに仏法は、たしなめ。」年を取ると、歩いて法座に行くことも思い通りにならず、法話を聞いていても眠くなつてしまうものだ。

（『御一代記聞書』三十七）  
とおっしゃいます。少しでも早く仏法聴聞の座につきたいものです。

あるとする (Wikipediaより)

② 吉田兼好 「二八三頃〜三三二ころ」  
鎌倉後期から南北朝時代の歌人・随筆家。本名、卜部兼好。吉田兼好は後世の俗称。後二条天皇に仕えて左兵衛佐に至つたが、のち出家。和歌・文章にすぐれ、頓阿・浄弁・慶運とともに二条派の和歌四天王とよばれた。家集「兼好法師集」、随筆「徒然草」など（『小学館デジタル大辞泉』より）

① 沙弥  
出家者たちの集まりである、僧伽に属してはいるが、具足戒とよばれる、僧が守らなければならない戒律をまだ授けられておらず、僧伽の正式なメンバーとなつていない。「見習い僧・小僧」の立場。男性であれば「沙弥」、女性であれば「沙弥尼」と呼ばれる。これに対して、具足戒を受けた出家者は、比丘・比丘尼と呼ばれ、比丘には二百五十戒、比丘尼には三百四十八戒



年末の年越しにお寺で撞く除夜の鐘。何で108回なの？

除夜の鐘を百八つ撞くのは、昔から煩惱の数が百八あるからだと言われています。煩惱っていうのは、身や心を煩わせたり悩ませたりするはたらきですから、煩惱がはたらくと落ち着いた気持ちはおこりません。百八つもあるということはおこりません。百八つもあるということはおこりません。百八つもあるということはおこりません。

除夜の鐘を百八つ撞くのは、昔から煩惱の数が百八あるからだと言われています。煩惱っていうのは、身や心を煩わせたり悩ませたりするはたらきですから、煩惱がはたらくと落ち着いた気持ちはおこりません。百八つもあるということはおこりません。百八つもあるということはおこりません。

すが、私たちの体に六つの感覚器官（眼、耳、鼻、舌、身、意）があつて、それぞれに、いい気持ち（好）、悪い気持ち（悪）、どうでもよい気持ち（平）の状態があるので、十八の気持ちがあります。それに、きれいな状態（浄）、きかない状態（染）があつて三十六。さらに、これまでのこと（去）、いまのこと（現）、これからのこと（来）があるので、百八つになると言われています。仏教って、結構科学的に分析しているんですよ。

もう一つの数え方は、四苦八苦の四×九と八×九を足して、一〇八となる語呂から言われること。これは、四十二が死を意味するから忌み嫌うと同じで、日本人がよくする数え方です。いずれにしても、これだけの煩惱を抱えている私たちですから、年に一度は除夜の鐘を撞いて、一年の反省する機会を持ちたいですね。

お寺とともに

「親鸞聖人の杖」

11月の報恩講では大勢の方がお詣りくださり有り難いことでした。コロナ後、お昼のお齋を通常通りに再開してから一年が過ぎ、お勝手会や年番の方々も昔ながらにお齋の準備をしてくださりました。

今年の献立では報恩講恒例の大きな大根とシイタケに、ゴボウを添えることが提案されました。何でも越後への長旅や関東での親鸞聖人のご苦勞を思い、旅姿の杖をイメージしてのことでした。「ん？杖？」

そう言えば順慶寺の境内の親鸞聖人の銅像はどうだったかな？と境内まで走って見に行くと大きな杖と笠をつけた御姿でした。毎日目にする御像ですが、改めて拝見する長い杖に苦勞のご生涯が偲ばれました。



第五十六回 カレーライス

先日、順慶寺でも報恩講がとまりました。これも報恩講では、私が小学生のときからカレーをいただきます。友人も、何となくお寺に親しみを感じてくれるのかなあと思います。お寺は仏法聴聞の場ですが、子供でも立ち寄りやすい開かれ場所です。あたたかかったです。



今年の報恩講のお齋メニュー

# コロナス復活し参門会も助音に参加 当山報恩講を盛儀に厳修

さる11月15日(金)から17日(日)の三ヶ日、順慶寺の最大行事である報恩講が厳修され、コロナ禍以前に戻り多くの方が順慶寺に参詣されました。

## 帰敬式と子ども報恩講

11月というのに、昼間は夏日になるうかという暖かい日和の中、順慶寺では、親鸞聖人の御命日に親鸞聖人のお徳を偲ぶ報恩講が厳修されました。昨年からは、コロナ禍で様々に規制していたことをすべて撤廃して、令和元年まで厳修してきた法要の形に戻して、午前午後の日程でお斎、お抹茶接待などをさせていただいています。

報恩講初日は、三年に一度実施する帰敬式を行いました。今年の受式者は十名。事前に帰敬式を受式する意義を説明してあったこともあって、すべての皆さん正装で、帰敬式受式者用の肩衣をつけての受式となりました。夕方には、こども報恩講。岡崎教

区児童教化連盟の皆さんが人形劇を披露してくださり、カレーライスをお腹いっぱい食べて、集まった三十名ほどの子供たちは大喜びでした。

## 最高潮の御満座法要

土曜日と日曜日の二日間は、午前午後の法要。お勤めは、報恩講のために練習を重ねてきた男女三十人ほどの助音講の皆さんが助音を引っ張り、大きな声であげることができました。今年から、若手の参門会のメンバーが助音に加わり、最後の御満座では雅楽が加わり、最高潮の法要になりました。

また、今年から小規模になりましたが、コロナスも復活。二日目の法話の前に「みんなの歌」として、「ちいちの華のなかよりは」と「みめぐみの」二曲を披露し、参詣者の皆さんと「真宗宗歌」を歌いました。

法要には、お勝手会の皆さんが全面的にお斎の準備をしてくださり、各地の年番さんが配膳や法要のお手伝いをしてくださいました。また、多くの方から法要の寄進や御香資を頂きました。護寺会役員一同、心から感謝いたしております。

### 【報恩講特別寄進】

〔御仏供米四斗〕塚本敬様、岡川経康様  
〔お斎用大根〕鈴木市成様、〔本堂仏華用菊各種〕相木好永様、弘子様、〔お斎用野菜〕お勝手会様、その他多数



飯田真宏先生



宇治谷顕先生



助音講の皆さん



お斎用の大根

## 報恩講写真館

皆さまのおかげで、報恩講が無事終えることができました。



帰敬式の受式



復活したコーラス



児連の人形劇

## 編集部短信

◆防災訓練を実施 〓 さる11月15日、報恩講初日の午前、順慶寺護寺会総代で防災訓練を実施。初めて消火器の放水訓練を実施したほか、防災倉庫、発電機などのチェックも施した。

◆本山団参に27名参加 〓 さる11月21日、岡崎教区21組主催の本山報恩講団参を実施。組内七ヶ寺からバス二台90名の参加があった。順慶寺からは、27名の参加。

◆順慶寺境内地の墓地管理規約を一部変更 〓 順慶寺墓地管理委員会では、順慶寺境内地墓地の惣骨塔の拡張が完了したことに合わせて、責務護寺会四役との会合を経て、墓地管理規約を一部変更した。墓地区画を保有している方には、具体的な内容

11月度護寺会物故者(敬称略)

釋茂実

11月1日寂 永塩 茂(86)

今川町 永塩徹様の父

舞然院釋尼妙直

11月4日寂 山田直美(74)

豊田市 山田智一様の母

## 刈谷市仏教会のお楽しみ企画 花祭り企画のインスタ公開

刈谷市仏教会では、来年4月6日(日)に花祭りを刈谷市アイリスホール・みなくる広場で計画しています。花祭りでは、キッチンカーが来たり、パフォーマーが

来たり、オリジナル串和菓子を出したりお楽しみ企画盛りだくさんの予定です。現在刈谷市仏教会では、公式インスタグラムを公開して、随時更新しています。掲載のQRコードからフォローを募集中。



を報せるため、直接郵便等で規約の変更を通知している。

## 編集雑記

10月の終わりに、北名古屋市仏教会の招待で、前東京工業大学副学長の上田紀行氏の講演会に行きました。上田氏は奥さんが武内陶子アナだったり、春風亭小朝が従弟だったりで驚きました。話も上手で、最後に、「皆さんは、すでに幸福な時代を生きました。子供たちは幸福を見いだせないと言っています。どうしますか」という問いは、これから大きな課題となりました。(往)

急に寒くなりました。掛け布団を夏仕様のままで寝ていたのですが、先日寒さで夜中に目を覚ましてしまいました。暑さ寒さに翻弄される日々です。(若)



# 12月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	日	(有志)寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	
		順慶寺こども会(9:00～、寺カフェとコラボ)	
2	月	お楽しみ会(14:00～、順慶寺本堂)	
3	火		
4	水	落合組お取越	
5	木		木-1
6	金		
7	土		
8	日		
9	月		
10	火	順和会ゴルフコンペ(貞宝C.C.)	
11	水	西丘組お取越	
12	木		木-2
13	金	一里山組お取越	
14	土		
15	日	真宗講座(16:00～、順慶寺本堂)	

16	月		
17	火	近崎組お取越	
18	水		
19	木		木-3
20	金	北尾組お取越	
21	土		
22	日		
23	月	平松組お取越	
24	火		
25	水		
26	木		木-4
27	金	年末大掃除(8:30、順慶寺)	
28	土	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺本堂)	
29	日		
30	月		
31	火	年越し勤行(23:45～、順慶寺本堂他)	
1/1	水	修正会(大晦日年越し勤行に続く、01:00終了)	

## 12月行事内容 詳細

### 年越し勤行(修正会)

12月31日(火) 23時45分  
～1月1日(水) 1時00分終了

順慶寺本堂にて

令和6年、コロナ禍が終息して向かえた年でしたが、体温を超える気温の日が続き、記録的な猛暑にどのように対処するか、今後のあり方を考えさせられた一年でした。

このような気候変動は、世界規模で起こっており、COP29「第29回国連気候変動枠組条約会議」では、COP21のパリ協定で定められた目標「世界全体の平均気温上昇を産業革命前の1.5℃に抑えること」を念頭に議論していますが、目標は容易に達成できそうにないとされています。

気候変動という、生きるために必須な事項ですらうまく合意できず、ウクライナ、ガザ、レバノン等では戦火が拡大しています。やはり、釈尊の説かれる通り、人間世界は娑婆(耐え忍ぶ世界)なのでしょう。

大晦日、除夜の鐘を打って一年の反省し、御本尊の前でお勤めをして、心新たに新年を迎えましょう。

**好評につき**  
**今年もおきからのお年玉**

年越し勤行の右記の時間に、本堂で正信偈のお勤めをされたい方に、寺からのお年玉として、もれなく、粗品を差し上げます。お楽しみに。

## お知らせ

●年末大掃除について  
恒例の年末大掃除を12月27日に開催します。本堂、境内、庫裏の大掃除を役員、クリーン会他の皆さんで行います。

●12月の寺カフェは琴と三味線のコラボ  
毎月1日に開催している寺カフェですが、12月と来春1月は、楽しい企画を計画しています。寺カフェ製作のチラシ(以下に掲載)をご覧ください。なお、12

「寺カフェ」  
●12月18日(日)9～11時  
お琴と三味線の演奏  
1月5日(日) 〃  
新春寄席(愛教大落研)  
★順慶寺:南落間&東屋&本堂

月は子ども会と共催で行います。

## じゅんこのときめき歳時記 アンコウ

みなさん、今年も暮れになりました。暑かった夏が過ぎて、秋を感じる前に、冬が来た感じですがおかわりないでしょうか。

寒くなってくると、やはり、急に鍋が食べたくなりますね。コンロに温められながら、フウフウいいながらの鍋は最高です。その中でも、あんこう鍋はいいですね。鍋の横綱は「東のアンコウ、西のフグ」と言われるそうですが、アンコウのよくとれるのは、下関だそうですから、意味がよく分かります。

アンコウは、皮、肝臓、卵巣、胃袋、ひれ、白身、あご肉のすべてが

食べられ、刺身や唐揚げ、和え物にしても美味しいそうです。姿がプロテスクで、体にぬめりがあるので、吊されてさばかれるのが少し可愛そうな気がします。因みに、太った人をアンコウ型というのは、アンコウの姿をいうそうです。

とめどなき  
大鯢鱈の涎かな  
岡田耿陽

